

I. センターが果たすべき役割

《ミッション》

がんの征圧 ～がん医療の基幹病院としての先導的役割を發揮～

《役割》

- ・ 府のがん対策推進の中心的役割
- ・ がんと循環器の高度先進医療の実践
- ・ 府域のがん医療水準の向上

II. 備えるべき機能

～“がん医療日本一”を目指す～

1. がんと循環器の集学的医療の推進
2. 放射線・遺伝子治療などを活用した難治性・進行性・希少がん医療の充実
3. 人材育成・技術支援機能の強化による府域のがん医療水準の均てん化
4. 新しい診断・治療法の開発、がん情報の収集・評価・提供、府医療施策への提言
5. がん患者や家族に対する支援機能の強化

III. 新病院のイメージ（想定）

(1) 想定する施設規模

- ・ 病床数：500床（現行どおり）
- ・ 延床面積：65,000㎡  
（病院 60,000㎡ [現行 50,000㎡]、研究所 5,000㎡）

(2) 建設場所／手法の検討

- ・ 建設場所：大手前地区（1.2ha）を念頭  
現地建替案と移転案について『工期』、『整備費』を比較検討

	【移転案】	【現地建替案】	【移転案のメリット】
整備期間	約5年半	約8年半	約3年短縮
整備費（超概算）	約340億円	約360億円	約20億円安価

※ 整備費には、最先端医療機器整備費約50億円を想定。

- ・ 事業手法：PFI手法と従来手法で比較検討（整備費はPFI手法を念頭）

《府民からみたメリット》

1. 高度先進医療の推進による『難治性・希少性がん』等に対する治療成績の向上
  2. 治療技術の均てん化による『5年生存率』の向上
  3. 施設機能の拡充による『検査・手術待ち』の解消
- ※ 移転案により早期に実現。工事による診療機能への影響も回避

IV. 基本構想での検討項目（イメージ）

(1) 備えるべき機能

- ・ がん医療の動向を踏まえ、今後センターが重点的に取り組む分野を整理

(2) 施設規模

- ・ 類似病院を参考に具体的な施設イメージ（面積、機能）を精査

(3) 整備手法及び工事費

- ・ 施設規模や敷地条件を踏まえ、PFI手法と従来手法を比較検討

(4) 長期収支の分析

- ・ 20年度の決算状況や今後の償還負担を踏まえ、機構の収支を推計